

ICT 活用工事積算要領（土工 1,000m³ 未満）

1 適用範囲

本資料は、以下に示す土工量 1,000m³ 未満の ICT による土工（以下「土工（ICT）（1,000m³ 未満）」という。）に適用する。

2 機械経費

2-1 機械経費

土工（ICT）（1,000m³ 未満）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。

①土工 1,000m³ 未満（ICT）

ICT建設機械名	規格	機械経費	備考
バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対応型 (第3次基準値)、 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	損料に低計上	ICT建設機械経費加 算額は別途計上

2-2 ICT 建設機械経費加算額

2-2-1 賃料加算額

ICT 建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち賃料にて計上する ICT 建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

(1) 土工 1,000m³ 未満（ICT）

対象建設機械：バックホウ（ICT 施工対応型）

賃料加算額：5,470 円／日

2-3 その他

ICT 建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

2-3-1 保守点検

ICT 建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

(1) 土工 1,000m³ 未満（ICT）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05 (\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量 (m}^3\text{)}}{\text{作業日当たり標準作業量 (m}^3\text{/日)}}$$

(注) 作業日当たり標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当たり標準作業量」の ICT 標準作業量による。

(注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。

2-3-2 システム初期費

ICT 施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

(1) 土工 1,000m³ 未満（ICT）

対象建設機械：バックホウ

費用：ICT 建設機械経費損料加算額に含む

3 三次元起工測量・三次元設計データの作成費用

三次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、当該工種に係る必要額を適正に積み上げるものとする。また、三次元起工測量を実施し

ICT 活用工事積算要領（土工 1,000m³ 未満）

た場合は、三次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。

4 三次元出来形管理・三次元データ納品の費用、外注経費等の費用

原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受発注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適正に積み上げるものとする。

5 積算方法

受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、[ICT 建設機械使用割合 100%]を用いて積算するものとする。

【参考】

1 施工歩掛

(1) 土量の表示

すべて地山土量で表示する。

(2) 土質区分

日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。

表 1.1 土質区分

土質名	分類土質名
レキ質土, 砂利混り土, レキ	レキ質土
砂	砂
砂質土, 普通土, 砂質ローム	砂質土
粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土	粘性土
岩塊・玉石混り土, 破碎岩	岩塊・玉石

1-1 オープンカット（バックホウ掘削）

(1) 日当たり施工量

オープンカット（バックホウ掘削）の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 1.2 オープンカット(バックホウ掘削)日当り施工量（1日当り）

作業の内容	名称	土質名	規格	単位	数量	
					障害なし	障害あり
オープンカット 1,000m ³ 未満	バックホウ (クローラ型) 運転	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	m ³	169	83
		岩塊・玉石	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	m ³	129	64

1-2 片切掘削

(1) 日当たり施工量

片切掘削の日当り施工量は、次表を標準とする

ICT 活用工事積算要領（土工 1,000m³ 未満）

表 1.3 片切掘削（人力併用機械掘削）日当り施工量（1日当り）

作業の内容	名称	土質名	規格	単位	数量
片切掘削 1,000m ³ 未満	バックホウ（クローラ型）運転	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	m ³	164

- (注) 1. 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。
 なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。
 2. 上表にクレーン作業は含まない。

(2) 人力掘削歩掛

片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛は、次表を標準とする。

表 1.4 片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛（100m³ 当り）

名称	土質名	単位	数量
普通作業員	レキ質土・砂・砂質土・粘性土	人	3.9

- (注) 本歩掛は掘削までとし、法面整形は含まない。
 なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。

2 単価表

(1) オープンカット（バックホウ掘削）100m³ 当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	日	100/D	表4.2
諸雑費		式	1	（まるめ）
計				

(注) D：日当たり施工量

(2) 片切掘削（人力併用機械掘削）100m³ 当たり単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員		人		表4.4
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	日	100/D	表4.3
諸雑費		式	1	（まるめ）
計				

(注) D：日当たり施工量

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ （クローラ型） （オープンカット）	後方超小旋回型・超低騒音型 排ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →48 機械損料数量→1.33
バックホウ （クローラ型） （片切掘削）	後方超小旋回型・超低騒音型 排ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	機-33	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →48 機械損料数量→1.33